

64~6闘争の意義を確信し、さらに闘いぬこう

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

軍事大国化と対決する反戦政治闘争の高揚へ

動労千葉は、6・4横須賀集会、6・5減産闘争、6・6代々木集会と続く反核・反安保連続闘争を、三月ジェット決戦闘争に続く、極めて重要な政治課題としてとらえ、全力をあげて闘い抜いた。

三五万人体制攻撃、仲裁裁定未実施、公務員二法等々の諸反動攻撃が、職場・生産点を直撃する状況下で、この諸反動攻撃をはね返してゆく唯一の道は、この間、動労千葉が闘いの実践を通して明らかにしてきたように、敵の軍事大国化へ向けた政治路線と対決する闘いを職場・生産点から創り出してゆくことであり、われわれは、この6・4~6闘争貫徹の意義に確信をもって闘い抜いてゆくのでなければならぬ。

6・4~6闘争の才一の意義は

動労千葉が、職場・生産点からの減産闘争をもって、断固たる反戦・反核の闘いを貫徹したことは、

81・3ジェット決戦ストを闘い抜いた動労千葉が、明確に、政治闘争の位置付けをもって、この闘いを闘い抜いたことは、「本部」土屋一派のまやかしの闘いとは異なる質と重みをもって、動労内外の全国の戦闘的労働者・人民の大きな共感をかちとっている。

「本部」土屋一派は、第一に、中央の路線的位置付けがでたらめなこと、第二に、土屋等の「地本」指導部が、反戦闘争、政治闘争などの感性を全く持っていない右翼組合主義者以下のこと、によって、当局に電話でスト通告をしたのはよいが、何の指導もないため「組合員」が出動してしまい、当直助役が出区、点検中の「組合員」をあわてて連れ戻し、「あなたはストライキに入るのではないですか」と「忠告」されるといふ、マンガにもならない茶番を演じ、動労千葉と国労組合員の怒りと嘲笑のまとなっているのである。

6・4~6闘争の才二の意義は

総評・社会党・県労連の呼びかけに、動労千葉が6・4横須賀闘争に、津田沼支部における前夜総決起集会への二一〇名の結集と同時に、青年部を中心とする一五〇名、6・6代々木集会に二三名の隊列で決起し、権力の弾圧をはね返して断固闘い抜き、三月ジェット決戦闘争の貫徹を踏まえて闘う動労千葉の正義性を全参加者に訴え、多くの共感と連帯をかちとったことである。

6・4横須賀においては、機動隊の極めて理不尽な弾圧をはねのけ、元気よくデモ行進する動労

千葉の隊列へ、先にデモ行進を終り流れ解散した動労、国労も含めた参加者から大きな拍手がわきおこり、たまりかねた「本部」反動分子の弱々しいヤジは、動労千葉の凄じい気迫と全体の拍手にかき消される有様であった。

6・6代々木においては「ヘルメットをとらなければデモ行進を認めない」という権力・機動隊の挑発的弾圧を、県労連、社会党県本と一体となつた抗議で粉碎し、力強くデモ行進を貫徹した動労千葉に対し、県労連二千と、他県の参加者から大きな共感の拍手がわき起つたのである。

6・15闘争へ

「動労千葉支援基金」運動が、六月三日現在で、一五〇〇万円をこえたことも含め、動労千葉の闘いに対する労働者・人民の共感は大し、支援・連帯の環は大きく物質化されてきている。

自らが断固闘い、闘いを通して組織強化をかちとり、広範かつ重層的な支援・連帯の環を拡大・強化してゆくという、動労千葉が、三里塚・ジェット闘争でうちたてた路線の正義性は、「本部」反動分子のちよう落をしりぬに、闘いの中で、いよいよはつきりとしてきている。

この6・4~6闘争の高揚を、さらに6・15闘争の圧倒的高揚へ向けて、闘い抜いてゆこうではないか。

**軍事大国化・核武装と改憲に反対し
三里塚闘争勝利をめざす**

6・15大集会

6月15日 十七時 明治公園
集会呼びかけ人
浅田光輝、高島喜久男
石橋政次、北原鉞治、関川幸他